

## 文化芸術分野の現状と課題

## 社会情勢の変化

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術の**活動や鑑賞の機会が制限**されている。
- 関連する分野との連携を視野に入れた**文化芸術政策**の展開が求められている。
- 過疎化や少子高齢化などを背景に**文化財の継承や伝統の担い手が不足**しており、文化財の滅失や散逸等が懸念される。

## 政策動向

## ①文化芸術推進基本計画（平成 30 年閣議決定）

- 文化芸術の創造・発見、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会を提供する。
- 文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれるとともに、文化芸術の国際交流・発信を通じて国家ブランドの形成に貢献し、創造的で活力のある社会を形成する。
- あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会を形成する。
- 地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地に形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティを形成する。

## ②文化経済戦略（平成 29 年策定）

- 国・地方自治体・企業・個人が文化への戦略的投資を拡大し、**文化を起点に産業等他分野と連携した創造的活動によって新たな価値を創出**し、その新たな価値が文化に再投資され持続的な発展に繋がる好循環を構築する。

## ③障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（平成 31 年策定）

- 障害者による文化芸術活動の幅広い促進を行うとともに、芸術上価値が高い作品等の創造に対する支援を強化する。
- 地域における、障害者の作品等の発表、交流の促進による、心豊かに暮らすことのできる住みよい地域社会の実現を図る。

## ④「文の京」総合戦略（令和 2 年策定）

- 区民が地域の文化や伝統等への関心を高めるとともに、区内にある多様な文化資源を活用し、**区民が一層文化芸術に親しむことができる環境づくりに取り組む**。
- 老朽化が進む文化施設について、区民に親しまれる多様な文化芸術の発信拠点としての役割を担うため、**施設の改修や事業のあり方の検討を進める**。

## 点検・評価と実態調査結果からわかったこと

## ①だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり

- シビックホールでの公演や小・中学校への出前コンサート等により、区民の文化芸術への興味・関心の高まりが期待される中、一層興味・関心を高めるため、それぞれの**ニーズに合ったプログラムの提供**が必要である。
- 親子向けのコンサートは来場者から好評を得ているが、より多くの人に参加できるように、対象者を拡大したプログラムの検討が求められる。
- 区報やホームページ、SNS など様々な媒体による情報発信を行っているが、区民の興味・関心を高めるためには、**発信内容の充実を図り、より踏み込んだ情報提供**が必要である。
- 令和元年に実施した「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査」の区民向け調査（以下「区民向け調査」という。）によると、文化芸術に親しむ人が増えるために区がより力を入れるべき取組の視点は、「気軽に親しみやすい場づくり」が 58.7%と最も多くなっている。

## ②文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

- 新型コロナウイルス感染症の影響や令和 3 年度からのシビックホールの改修により、文化活動や鑑賞など、区民や団体等が文化芸術に触れる機会の減少が予想される。そのため、感染拡大防止対策の支援や鑑賞の場の確保など、区民や団体が文化芸術に触れることのできる機会の創出が求められる。
- 文化芸術の担い手の高齢化が進んでいるため、子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出するなど、次の世代の文化芸術の担い手の育成が必要である。
- 区民向け調査によると、区民の過去 1 年間における**文化芸術の鑑賞率は 81.2%、活動率は 32.4%**となっており、いずれも国や東京都に比べて高い値となっている。

## ③「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、現地に赴いて伝統や歴史に親しむことが困難となっている。加えて、伝統文化を守り、伝える人材の活動の場が失われている。
- 現地に行くことの重要性を踏まえつつも、動画配信をはじめとする多様な方法により、伝統や歴史に親しむ機会の創出や情報の提供が求められる。
- 観光分野をはじめ、教育など**他の分野と連携を図り、地域の文化資源の再発見と活用**の推進が必要である。
- 区民向け調査によると、区内文化財の活用方法として期待されているのは、「観光振興への活用」が 42.0%と最も多くなっている。

## 次期計画に向けた現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、区民や団体が文化芸術活動や鑑賞を行うことが難しい状況となっている。
- 動画配信による文化芸術の鑑賞や感染拡大防止対策を徹底した上での活動の実施など、区民が文化芸術に触れることのできる機会を創出することが求められる。
- 性別や年齢、障害の有無などの属性にかかわらず、だれもが文化芸術に触れることができる社会の実現が必要である。
- 文化芸術の担い手が高齢化している中で、次代の文化の担い手の育成が必要である。
- 子ども達の文化芸術への興味・関心を高めるため、子どものニーズに合った文化芸術プログラムの提供が求められる。
- 観光分野をはじめ、他の分野と連携を図り、地域に存在する文化資源の再発見と適切な活用の推進が求められる。

この部分に対するご意見を  
資料 2 にご記入ください。

- ・今後 5 年間の施策を検討する上で、考慮したほうがよいと思われることをご記入ください。
- ・この資料から読み取れることだけでなく、ご自身の経験からのご意見でも結構です。